

Rock The Life! ezorock vol.37

2022.04

2021年度ボランティアリーダーに聞いてみました

ボランティアリーダーに1年を振り返って、印象的だったことを聞いてみました。



結
モビリティについて考える会
/ 酪農学園大学4年

モビリティについて考える会という受け皿ができて、ポロクルのアルバイトからezorockへ、元々ポロクルをやっていた人がezorockで何かを考えるきっかけができたのが良かったです。社会課題に終わりはありませんが、来年度はチームとして1つでも何か残し、走りたいです。



アキ
浜益ベース
/ 北海道大学4年

浜益は、行く度触れる度に新しい発見がある素敵な場所です。1年間リーダーとして浜益の自然や人々の良さに触れてきました。色々な活動を通して、私自身を含め、これからも浜益と関わりたいと言ってくれる人と浜益とを繋ぐことができ良かったと思います。



ごう
プロジェクト「NINOMIYA」
/ 北海道大学修士課程2年

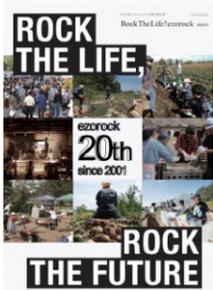
1年間楽しいことも辛いこともありましたが、ボランティアの皆さんや子どもたちが薪割りを楽しんでいる光景を見たときには、やってきてよかったなと思いました。栗山町との連携事業では地域の方々と一緒に活動し、薪づくりには人々の輪とエネルギーの両方を生み出す力があると感じました。

ezorock20年歴史号の制作

2001年のRSRの環境対策活動から始まったezorockは2021年で20年を迎えました。これまでの活動を振り返るニュースレターとして、団体や個人のターニングポイントを探り、これまで関わってきた多くの人の想いが掲載された内容となりました。

ezorockの20年を振り返るニュースレターが完成!

- 20年歴史号の内容
- ezorock20年ヒストリー
- ezorockのターニングポイントになった言葉たち
- 内部メンバーとの対談
- 外部の方からのコメント



ezorockで活動してきたメンバーから、活動を振り返り、心が揺り動かされた名言やターニングポイントとなった言葉をアンケート形式で収集。多くの方が名言だと感じられたものを選び、紙面にまとめました。活動メンバーの想いが垣間見える内容になっています。

GREENDAY2022実施報告

2022年2月19日-20日の2日間で全16セッションを実施、のべ134人が参加しました。



分科会の様子など詳細な当日レポートはこちらから↓



北海道内外の青年層が集まり、講演会やディスカッション、スキルアップ講座などを通して、「これから」の北海道を考える2日間のフォーラムを実施。オンライン開催ということもあり、札幌近郊だけでなく道東や本州など遠隔地からもご参加いただきました。オンラインでも参加者同士のつながりを生み出すため、休憩時間中に雑談ができるよう新ツールoViceを活用したり、朝ごはん企画用に参加者全員に乾燥しいたけを郵送する等、今後の可能性を広げることができました。

今年のGREENDAYのテーマは「開拓」。この言葉には様々が意味が考えられます。2日間を通して、参加者のみなさんには自分の「開拓」について自由に考えてほしいという願いを込めました。

今年はテーマのロゴも作成しました→



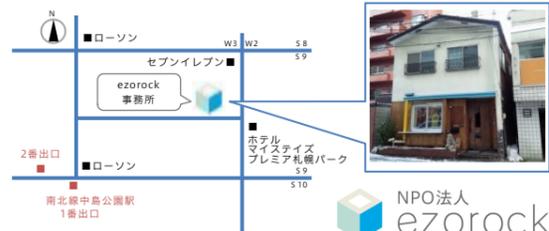
2021年度活動報告レポート

代表の小言

変動する世界と世界の私たち

日本人より日本のことを考えた人と言われる「ドナルド・キーン」さんをご存じですか。ニューヨーク生まれの日本文学の研究者です。「地震や津波、原発事故があっても日本人が落ち着いていたことに感心しました。」そう言って日本国籍を取得した方でもあります。世界中で起きている様々な出来事に対して、「何をしたいか」「何を増えようか」と、悩むことが増えました。こうした際には、いつもキーンさんの考えに触れ、まずは私たちの暮らしや文化に目を向けて、何か大切なことを忘れていないだろうかと思えるようにしています。私たちがとっているの当たり前のことが、世界にとっては、価値のあるユニークなことかもしれない。足元にあるものを大切にしながら、世界と対話していきたくものです。

草野 竹史



今月の写真
2021年度の活動写真を集めました。



環境対策活動 EarthCare/RSRオーガニックファーム



活動紹介 野外音楽フェスティバルや、地域のお祭りにおけるごみ分別ナビゲートを展開。「ごみ」をツールに、自分のことは自分でする「Do It Yourself」の精神を伝えることで、参加型社会をつくる。

シェアサイクル ポロクル/モビリティを考える会



活動紹介 シェアサイクル「ポロクル」の現場運営や自転車のルールマナー啓発活動への参加。今年度よりモビリティについて考える会(以下モビ会)を発足し、自転車をはじめとしたモビリティに関する課題を調べアクションにつなげることを目的とし活動している。

石狩体験キッズ「チポロ」



活動紹介 札幌近郊で身近に自然を感じることに出来る石狩を拠点に、自然体験イベントや環境教室の補助などを行い、それを通して子どもの体験の機会と場を提供している。

サポートチーム

広報部



交流部



研修部



ezorockは2021年4月で設立から20年が経ち、これまでの取り組みや成果をまとめるニュースレターの制作を行った。

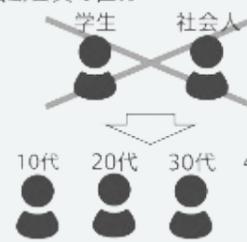
今年も道内外の青年層を対象に講演やディスカッションを行う2日間のフォーラムGREENDAYを実施した。

2021年度ezorock news

2021年に新たに実施した取り組みを3つお届けします!

Pick up① 会員区分の変更

<活動会員の区分>



学生、社会人の所属区分ではなく、年齢ごとに役割があると考え、活動会員区分と会費額を所属(学生/社会人)ごとから年代ごとの区分(10代、20代、30代、40代以上)へと変更した。

新会員制度の詳細はこちら



Pick up② バーチャルオフィス oViceを導入



内部メンバーの交流活性化を目的に、新ツール「oVice」を導入。現在、ほとんどのミーティングはZoomから移行し、oViceにて実施している。

Pick up③ 皮の利活用を考える、「シカ革なめし部」が始動



北海道のシカ猟において、皮を鞆せる場所が無く捨ててしまっている事に着目し、自分たちで鞆し、活用することができるのか模索している。

シカ皮なめし部の詳しい活動はこちら



プロジェクト「NINOMIYA」



活動紹介 石狩を拠点に未利用材を活用し、薪割り体験を軸に新生産を実施。生産された薪は販売し、売上の一部は子ども向け体験補助へ。

関係人口創出プロジェクト 179リレーションズ



活動紹介 北海道179市町村、それぞれの地域に関わる「入り口」をつくることを目的に活動。地域とつながるオンラインイベントの企画や、活動を発信するWEBサイトを運営。

浜益ベース



活動紹介 石狩市浜益区にお借りしている一軒家「はまますベース」に宿泊・滞在しながら、浜益と都市部の人々をつなぐさまざまな取り組みを展開。

年間カレンダー

- 4月 ポロクル現場運営(11月、札幌市)
5月 オーガニックじゃがいもづくり(8月、石狩市)
6月 浜益果樹園お手伝い(11月、石狩市)
7月 浦河森のようちえん(浦河町)
8月 RSRレポレーショングッズ販売
9月 いぬり自然学校イェイクラブ受け入れ(石狩市)
10月 鷹栖町古民家プログラム(鷹栖町)
11月 ezorock打ち上げ(石狩市)
12月 179REPORT#2配信(オンライン)

いただいたご寄付・助成金

- 助成金
・独立行政法人環境再生保全機構
・特定非営利活動法人北海道NPOファンド
・公益財団法人北海道青少年育成協会
・一般社団法人北海道総合研究調査会

報道採録

- 紙媒体
5月 広報いしかり令和3年5月号(浜益ベース)
5月7日 毎日新聞(スタッフ水谷)
5月13日 北海道建設新聞(浜益ベース)
5月21日 北海道建設新聞(代表草野)
7月21日 北海道新聞(浜益ベース)
8月27日 北海道新聞(代表草野)
11月29日 北海道新聞(浜益ベース)
12月-1月 AIRDO機内誌(179リレーションズ)

活動へご支援いただきありがとうございました